

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年04月01日

計画の名称	三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画													
計画の期間	令和03年度 ～ 令和06年度（4年間）											重点配分対象の該当	○	
交付対象	安城市													
計画の目標	平成30年度に策定した第三次安城市都市計画マスタープランに基づき、本市の広域拠点であり西三河の地域拠点と位置付ける三河安城駅周辺を中心に、「市民とともにつくり・つかう協創のまちづくり」の実践を目標とし、 公民が協創（お互いに協力しながら、まちやまちのつかい方を創ること）しながら第三次安城市都市計画マスタープランの目標である「みんなでまちをつかう！市民とともに育む持続可能な都市づくり」の実現を目指す。 （つかう）パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動と連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成を実現する。 （つくる）ミクストスペースの活用をきっかけとした、ステークホルダーとの連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成を実現する。 （集まる）マチナカプレイスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成を実現する。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		106	A	106	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R3		R6
1	（つかう）公共空間等を活用した、まちをつかう！プロジェクト数（回／年）			
	（つかう）公共空間等を活用した、まちをつかう！プロジェクト数	5回／年	回／年	48回／年
	都市再生整備計画区域内の公共空間等での、まちをつかう民間活動（社会実験含む。以下同様）の実施回数			
2	（つくる）つかってつくる！リノベーションエリア（％）			
	（つくる）つかってつくる！リノベーションエリア	0%	%	17%
	都市再生整備計画区域内の公共空間等の内、まちをつかう民間活動によってリノベーションした公共空間の割合			
3	（集まる）まちをつかう！オーディエンス獲得数（人／年）			
	（集まる）まちをつかう！オーディエンス獲得数	290人／年	人／年	4800人／年
	都市再生整備計画区域内のまちをつかう民間活動時に収集する、実験で提供したサービスを受けた人数（イベントの参加者も含む）			
4	（つかうの波及）まちをつかう！プレイヤー数（団体）			
	（つかうの波及）まちをつかう！プレイヤー数（団体）	4団体	団体	10団体
	マチナカプレイスメイキング制度等を活用して、まちをつかう民間活動を行う民間団体数			

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	安城市	直接	安城市	－	－	三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画	三河安城マチナカ協創地区 A=57ha	安城市	■	■	■	■		106		－	
											小計						106			
											合計						106			

事 後 評 価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
都市再生整備計画事業主管課である都市計画課内にて実施	令和6年9月～12月
	公表の方法
	市ホームページへ掲載 都市計画課窓口での公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・まちづくりにつながるまちをつかう民間活動と連携した、心地よくまちをつかい続けられるしくみが浸透した。 ・プレイヤーとステークホルダーが連携した、つかってつくる心地よくまちをつかい続けられる空間が創出された。 ・まちづくりにつながるまちをつかう民間活動やステークホルダーと連携した、区域内で居心地よく滞在するオーディエンスが獲得できた。 ・まちづくりにつながるまちをつかう民間活動と連携が進み、心地よくまちをつかい続けられるしくみが浸透した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	

○特記事項（今後の方針等）

・民間活動数を持続させ、駅周辺広場整備後の公共空間活動につなげる。 ・機能を実装した施設の適切な維持管理とさらなる利用促進を図る。 ・公共空間を利用した活動が、継続的に参加者を獲得し続けられるよう、引き続き民間と連携を図る。 ・獲得したプレイヤーとともに、活動を稼げる民間活動へと高次化させる方法を探る。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	公共空間等を活用した、まちをつかう！プロジェクト数		
	最 終 目標値	48回／年	マチナカプレイスメイキング事業の認知度の向上やリノベーションした公共空間の割合の増加などの相乗効果が発現したため。
	最 終 実績値	54回／年	
2	つかってつくる！リノベーションエリア		
	最 終 目標値	17%	まちをつかう！プロジェクト数やまちをつかう！プレイヤー数が増加したことから、リノベーションエリアの公共空間の割合も連動して増加したため。
	最 終 実績値	22%	
3	まちをつかう！オーディエンス獲得数		
	最 終 目標値	4800人／年	まちをつかう！プロジェクト数やまちをつかう！プレイヤー数の増加にともない、民間活動への参加機会が飛躍的に増加したため。
	最 終 実績値	8419人／年	
4	まちをつかう！プレイヤー数		
	最 終 目標値	10団体	マチナカプレイスメイキング事業が広く認識され、またイベントの参加者も増加していることに影響して、活動の企画に意欲的な民間団体が増加したため。
	最 終 実績値	29団体	